



スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を



日本自立生活センター自立支援事業所 2017年2月24日発行 第71号

第31回「国際障害者年連続」シンポジウム

相模原障害者殺傷事件 どう受け止め どう考えるか

2016年7月26日に起きた相模原障害者殺傷事件は、私たち障害当事者や、この社会に生きる多くの人々に、大きな傷跡を残しました。この事件の後、いまだ言いようのない不安にさいなまれている人、気持ちの整理がつかない人、体調が不安定になった人などが多数おられます。

事件は私たちに大きな傷を残しているため、今回のシンポジウムについては、相互に議論を闘わずというよりも、それぞれの立場から思うこと、考えることをそれぞれで確認できる場にしたいと考えています。

■第一部(11:00-12:30)「神奈川の現場より ～亡くなられた方々のことと、現在の神奈川の動き～」

西角純志 津久井やまゆり園元職員。専修大学兼任講師。事件で亡くなられた19名のうち、7名の方の支援に従事していた。

ピープルファースト横浜 知的障害者の当事者団体。やまゆり園入所者の地域移行を応援している。

■第二部(13:30-15:00)「事件についてそれぞれの思いを聴き、また語る時間」

第二部発言予定者 佐々木和子(トライアングル)、岡本晃明(京都新聞)、平田義(重症心身障害者通所施設シサム所長)、松波めぐみ(大学非常勤講師)、日本自立生活センター、ピープルファースト 他

■第三部(15:00-16:30)「事件の背景や今後の課題について」

熊谷晋一郎 東京大学准教授。当事者研究。小児科医。脳性まひ当事者。

尾上浩二 DPI日本会議副議長。大阪青い芝の会出身。

2017年3月18日(土) 11:00~16:30

会場：京都テルサ大会議室 参加費：500円

※昼休憩は1時間です。昼食は各自でご用意下さい。

終了後、懇親会を予定しています。参加希望の方は事前に申し込み下さい。

参加費 4000円程度。

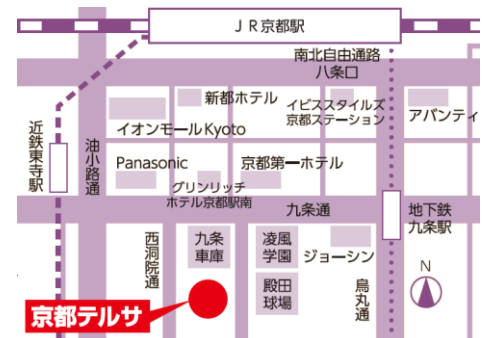
【お問い合わせ】「国際障害者年」連続シンポジウム運営・実行委員会事務局

住所：京都市南区東九条松田町28メゾンガラス京都十条101

日本自立生活センター(JCIL)内

電話：075-671-8484 FAX：075-671-8418

メール：jcil@cream.plala.or.jp



日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当：岡山・橋口

TEL: 075-682-7950 E-mail: jcil-kyoto@jcil.jp URL: http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html

2月から職員が1名増えました。さっそく紹介したいと思います。どうぞよろしくお願いします。

職員自己紹介

- ① なまえ ② JCIL との関わりはいつから？
③ きっかけは？ ④ どんな仕事をしていますか？
⑤ A:大切にしていること B:これからしたいこと

- ① 伊藤 慧 (いとう けい)
② 2015年8月くらいから。
③ ヘルパーの築瀬君の紹介。築瀬君とは大学1回生の時からの友人。
④ 介助。JC以外は時々デモや街宣の運営・企画したりしてます。
⑤ A:権力に迎合しない。
B:「これからしたい事」がはっきり見えてくるように、学んでいきたい。



今、介助に行きます

高橋 典子

介助の仕事、早いもので5年目です。自立生活なさっている3人の方に定期的に関わらせてもらっています。私は毎日同じ時間に同じ場所へ通うのが苦手で、高価なモノにはおしなべて興味がなく、むしろ社会的な事には興味があり、日々の小さな幸せが大好き。また低学歴でひきこもりがちだったため自然に身についた節約感覚や調理を重宝してもらえ、よく歩くし健康の知識も増えるし、介助は本当に私にとって有り難い仕事です。以前は、たびたび捕らわれていた、生きてる事じたいがイヤ・しんどいという絶望感もなく暮らせています。

目からウロコが何枚もはがれ落ちた重訪研修のおかげで当初から、指示にそって動く、まずとにかく聞く・聴く・訊く、そういう事はまったく苦にならないけど、逆に「ふつうに」「適当に」という、あいまいな指示がずっと苦手でした。特に家事には、誰しも無意識に「自分の当たり前」があります。例えば、そうじ機のかけ方も、トイレの床はどうするか、玄関たたき(土足の部分)、タイル床の風呂場、また床やたたみ拭きの方法も人それぞれ。さらに調理の仕方には無意識の価値観が強く表れます。味付けや食材の柔らかさはご自身で意識なさっていても、常備の調味料・野菜のストック・賞味期限への感覚などなど、案外ある個人差に気付くづらものです。ある意味で調理は化学実験と同じで「おいしく作ってね」という指示だと、データ不足でご本人のイメージどおりにならない事には私も何度も驚きました。ならば、とデータ収集をがんばると時間に追われてしまう。

もうひとつ、決定権をゆだねられる場合にも悩みました。三択ぐらいなら話し合いもスムーズだけど、その時その方にとっての最善を選ぶとなると、なかなか話が進まない。不思議と言うか、むしろ当然なのか、この二点の悩みは突き詰めれば出所が一緒でした。私はご本人の価値観や自主性を尊重しなきゃと思ひこみ過ぎて、毎日の事を自分ひとりで全部決めるのは基本的に誰にとっても大変な事、日々体調も違うし、時には単純に「決定→指示」の繰り返し嫌になる日もある、そういう配慮が抜け落ちていたのかな…、と思いついた時から介助中の動き方が変わってきました。

焦点は、その方がその時に求められている距離感。ご本人の生活そのものや価値観の邪魔にならないようにするのは当たり前。その上で、ご自分で決めるのが大変な場面なら、ちょっと出しゃばり気味にコミュニケーションを取って臨機応変に。また、Aさんに介助中の私とBさんに介助中の私で手助け・手出しのスタンスが違って、いま目の前の方のためになって誰にもご迷惑でなければオッケー。言葉にすると、こんな感じです。

私自身25年もの一人暮らし(あいまに二人暮らしもあったけど・笑)、常に「面倒くさい」や「後回し」の連続です。そこに毎日介助者がいて、指示の必要があって…、改めて本当に大変だろうな、と。だからこそ指示をもらう者としては、空間的にも時間的にも精神的にも、いつも距離感に敏感でありたい。

こんなふうに少しずつですが学びながら、みなさんの生活を手伝わせてもらう日々が続いていって、気づけば定年まちか…なんて最高だろうなあとと思っています。

(『自由人』No.76(2014年8月5日発行)に掲載されたものをご本人の許可を得て転載しました。)

総合支援法に変わったよ！ で、それで？Part59

自立生活満喫中のリツコさん
でもあんまり難しい話は苦手…



このあいだ梅の花見に行ってきたん。
すごくきれいやったわあ。

ほんまや。もうあつという間に、春やなあ。
今日はどんなお話なん？

知らへんわ〜。だって、名前も匿名やったし…
亡くなった方のことは、ほとんど報道されてへんやん。

けっこう重度の障害者？意思疎通とかがかなり
難しかったり、寝たきりだったり…かなあ。

うん。ほんまにひどいことやと思う。

そうなんや！
どんな方たちやったん？

〜。そういうことも明らかになってくるんや。
ちょっとスマホで見てみるわ！

えっ、囲碁をうってはったん？
思ってたイメージとだいぶちがうね…

そうなんや。
ほな、なんで施設に入ってはったんやろう？

そうかあ。重いから施設に入っていたわけじゃない…つまり、必要な支援がなかったから、施設にいあった。支援や環境の問題が大きいんやな。

ぜひいかな！いろんなことをちゃんと知りたいな。

障害者制度改革について
勉強中のタクオさん
小難しいこともやさしく(?) 解説



上品で風情があるよね。あと一ヶ月ちよつとしたら、
今度はもう、桜やねー

また、「やまゆり園」のこと。
今日は亡くなられた方や入所されたいた方について。
リツコさんは、どんな方々が亡くなった知ってる？

そうだよ。ほんとに明かされてない。じゃあ、亡くな
った方たちは、どんな障害があったと思う？

そういう印象があるよね。事件が起きたとき、ほんと重
度の人たちが入っている施設、と報道されていたしね。
容疑者も意思疎通が難しい方を狙ったと言われている。

うん。でも事件から半年以上たって、ちよつとずつ、亡く
なった方々のことがわかってきた。亡くなった方々は意思
疎通の難しい重度の方ばかりでなかったし、施設じたいも、
重い人ばかりが入っていたわけでないみたい。

NHKのサイトに「19のいのち」というページがある。
検索したらすぐ出てくるよ。そこに、元職員からの聞き取
りなどから、犠牲者の人となりやエピソードがちょっとだ
けど、掲載されてるんだ。

うん。たとえばこんなエピソードが紹介されている。
「囲碁の月刊誌を買ってあげたらとても喜んで、よくベッ
ドの上で雑誌を広げて「お前がこうなら俺はこうだ」など
と、夢中になって囲碁の手を考えていました。「先生は囲
碁は知らないんだよ、残念ながら」って言ったら、「今度、
僕が教えてやるよ」なんて話をしたこともありました。」

うん。他にも職員から「準職員」と呼ばれるほど、施設職員
の手助けをしてくれてた人なんかも紹介されている。

うん。そういうところを検証することもとても大事だと思
う。必ずしも、障害が重いから、施設に入っていたのでない。
障害が重たいから、容疑者に狙われたわけでない。

そうだと思う。3月18日のシンポジウムでは、そうした
ことも話し合いのテーマになってくると思う。

第5回市民活動交流会 「誰もが生きやすい社会を目指して」

障害者差別解消法からまもなく1年。

多様なく生>が肯定され、誰にとっても生きやすい、暮らしやすいまちとは、どんなまちだろう。

そんなことを考えるきっかけに、当たり前と思っている日常を、お芝居などをおして見直してみませんか？

パネルディスカッションもあって、充実の3時間。皆で声を掛けあって、是非お越しく下さい。

第1部

お芝居:JCIL劇団

お話:矢吹 文敏さん 日本自立生活センター(JCIL)代表

第2部

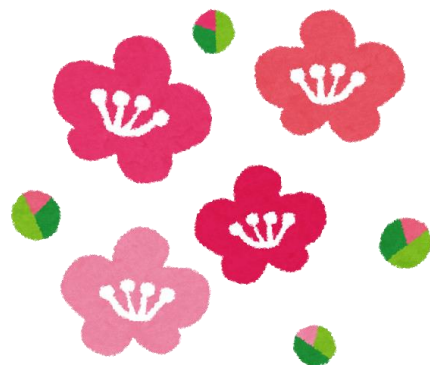
パネルディスカッション

パネラー:光島 貴之さん アーティスト

松波 めぐみさん 障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会事務局

佐々木 和子さん 京都ダウン症児を育てる親の会トライアングル顧問

コーディネーター:堀家 由妃代さん 佛教大学教育学部准教授



日時:3月4日(土)13:00-16:00

会場:京都市北いきいき
市民活動センター 集会室

参加費:無料 定員 50名

主催:京都市北いきいき市民活動センター

(NPO法人くらしネット21)

京都市北区紫野北花ノ坊町18

TEL:075-492-7320

Email:kurasinet21@yahoo.co.jp

協力:ツラッティ千本



こころとからだをすっきり! ヨガタイム

ヨガで自分の身体と向き合ってみませんか? ヨガの目的はきれいなポーズをとることではありません。その日の身体がどんなふう動くか動かないか、意識を自分に向ける時間です。呼吸が深くなり、肩こり、腰痛、疲労感もやわらぎます。もちろん腰痛予防にもいいですよ! ぜひ参加してみてください♪ 講師は石田久美さんです。

★ヨガ:全身をうごかすヨガ

日時:3月27日(月)

17:00-18:15 (OPEN16:45)

場所:油小路事務所2F

持ち物:動きやすい服装・タオル・飲み物

参加費:無料



*このヨガクラスは、JCIL自立支援事業所の利用者と家族・介助者を対象にしています。